

実は身近な発達障害

援助を求める力と合理的配慮 — 『困った』を伝える・受けとめる—



発達障害は見た目では分かりにくく、困りごとや必要なサポートは一人ひとり異なります。自分自身を知り、「困った」「助けてほしい」という気持ちを周りに伝える「援助を求める力」は、毎日をより過ごしやすいとする大切な力です。また、援助を求め応じてもらう経験は、やがて「合理的配慮」へとつながっていきます。本講演会では、合理的配慮とは何かを再確認し、援助を求めることの大切さや「困った」の伝え方・受けとめ方について考えます。



2026
11/14 土
午後1時から午後4時
(受付は0時30分から)

参加
無料

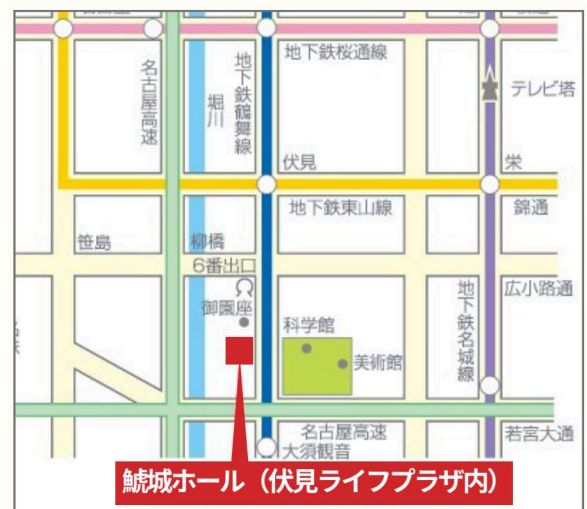
手話通訳
要約筆記
あり

定員
600名

応募者多数の場合は抽選
抽選結果は10月下旬頃通知予定

会場 鯉城ホール

名古屋市中央区栄一丁目23番13号 伏見ライフプラザ内
地下鉄伏見駅 6番出口から南へ徒歩7分、
地下鉄大須観音駅 4番出口から北へ徒歩7分
※会場へは公共交通機関をご利用ください



講師

阿部 利彦 さん

星槎大学大学院教育実践研究科教授

佐々木 銀河 さん

筑波大学人間系准教授

司会

渡邊 晶子 さん

フリーアナウンサー

申込方法は裏面へ
9/30 (水) 申込締切

実は身近な 発達障害

援助を求める力と合理的配慮 —『困った』を伝える・受けとめる—

講師プロフィール



阿部 利彦 さん

星槎大学大学院
教育実践研究科教授

専門は特別支援教育、教育相談。

『「援助を求める力」を大切にする支援』（中央法規,2025）では、子どもや家族、先生も安心して「困った」と言える環境づくりの重要性を提唱。「支援する側・される側」という垣根を越え、誰もが自分らしく生きる「場づくり」を応援する「人的環境のユニバーサルデザイン」化に取り組んでいる。



佐々木 銀河 さん

筑波大学
人間系准教授

博士（障害科学）。公認心理師。臨床発達心理士。発達障害のある学生をはじめ、障害のある人が学びや就労、生活の中で必要な支援を受けられるよう、合理的配慮に関する研究や実践に取り組んでいる。主な著書に『発達障害のある大学生のアセスメント—理解と支援のための実践ガイド』（金子書房、共編著）などがある。

申込方法

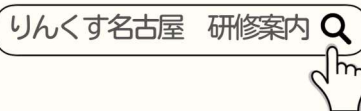
下記のどちらかの方法で**令和8年7月27日(月)から令和8年9月30日(水)までに**お申し込みください。

①電子申請

右のQRコード（名古屋市電子申請サービス）から

1名ずつお申し込みください。

※当所のホームページにも案内を掲載しています。



②往復はがき

- 往復はがき 1 通につき、**1名ずつ**お申し込みください。
- 令和8年9月30日（水）当日消印有効**です。
- 車いす席等、配慮が必要な方は⑤配慮事項にお書きください。

【記載例】

85 往信	466-0858 名古屋市発達障害者支援センター りんくす名古屋 宛	この面には、 何も記入しないでください ※参加の可否をお知らせします。	85 返信	○○○-○○○ 申込者ご本人のお名前	申込者の住所	11月14日講演会 参加希望
往信おもて		返信うら	返信おもて			往信うら

◎はがきの額面
は85円です。
◎返信先の郵便
番号も忘れず
にご記入くだ
さい。

問合せ先

名古屋市発達障害者支援センターりんくす名古屋
〒466-0858 名古屋市昭和区折戸町4-16

電話番号：052-757-6140
(平日午前8時45分～午後5時15分)

※悪天候等により中止又は内容を変更する場合があります。ご了承ください。